

第 1 0 回
第三期武蔵野市学校教育計画（仮称）
策定委員会

令和元年 1 1 月 1 8 日
於 武蔵野芸能劇場

武蔵野市教育委員会

第10回第三期武蔵野市学校教育計画（仮称）策定委員会

○令和元年11月18日（月曜日）

○出席委員（12名）

委員長 松田 恵 示
委員 奈須 正 裕
委員 竹山 正 弘
委員 半谷 守 廣
委員 氏家 順 子
委員 吉村 香 織

副委員長 橋本 創 一
委員 藤橋 義 之
委員 三原 忍
委員 伊藤 さつき
委員 竹浪 隆 良
委員 福島 文 昭

○欠席委員（1名）

委員 田村 学

○事務局出席者

教育長 竹内 道 則

教育企画課長 渡邊 克 利

指導課長 秋山 美栄子

統括指導主事 小澤 泰 斗

教育支援課長 牛込 秀 明

教育企画課係 安藤 雅 美

教育企画課係 中川 芽 依

指導主事 高丸 一 哉

教育支援課
特別支援教育・
教育相談係 村瀬 健 大

○次 第

1. 開会
2. 議事

(1) 第三期武蔵野市学校教育計画 答申について

(2) その他

◎開会の辞

○渡邊教育企画課長 皆さんこんばんは。

それでは、第10回武蔵野市学校教育計画策定委員会を開かせていただきたいと思いま
す。

開会に先立ちまして、事務局のほうからです。

今日、松田委員長は急用が入りまして、少しおくれるということでご連絡いただき
ております。田村委員は所用がありまして、今日をご欠席となっております。

ですので、ここから開会、進行につきましては、橋本副委員長にお願いしたいと思
います。よろしくお願いします。

◎議事

○副委員長 少し松田先生がおくれるということなので、委員長のかわりとして私のほう
で進行させていただきます。よろしくお願いします。

では、これより武蔵野市学校教育計画策定委員会を始めたいと思います。

皆様に本日の次第を配付しております。本日はこの次第に沿って進めさせていただきます
ます。

では、議事（1）第三期武蔵野市学校教育計画 答申について、事務局のほうから資
料のご説明をお願いします。

○渡邊教育企画課長 それでは、答申案の冊子をご覧ください。

前回から修正がかかった部分をご説明していきたいと思います。

まず、表紙をめくっていただきましてはじめにの部分、まだ空欄になっておりますけ
れども、今後答申をいただいた後、教育委員会のほうで来年1月、2月議論していただ
いて、確定する段階ではじめにの文章は教育委員会で作成したいと思います。

それから、13ページでございます。

今年度策定する第六期長期計画でございますけれども、そこの引用が少し間違ってい
る部分がございますので、修正させていただきました、網かけの部分になっておりま
す。これはそのまま長期計画から引っ張ってきております。

それから、36ページでございます。

前回、PTAの活動についてご指摘いただきましたので、ここは修正をさせていただきました。

37ページ、教職員の勤務時間でございますけれども、平成26年度の調査が少し古くなっておりましたので、31年度1学期の数字ではございますけれども、掲載をさせていただきました。

それから、42ページでございます。

42、43ページは、第二期学校教育計画の振り返りを、文章にさせていただきました。そのうちの3、学校と地域が協働した教育の第2段落でございます。こういった課題の背景についても分かりやすくということで「保護者の就労状況が変化し、地域の大人が地域行事に参加しにくい現状」というのを書かせていただきました。

それから、50ページでございます。

ここも学校・家庭・地域に関する部分ですが、前回の策定委員会で連携と協働についてご指摘があったかと思えます。その内容を踏まえて直しております。3つ目の丸ですが、「学校、家庭、地域が」の後です。「お互いに役割を補いつつ、お互いの主体性を尊重し、連携・協働して関わるのが、子どもたちのよりよい成長のためには大切」と書かせていただきました。

51ページ以降は、具体的な施策の説明になっております。

例えば、55ページでございます。余白については、写真や図表を加えて分かりやすくさせていただきました。

新しい事業である市民科、57ページでございますけれども、ここも学習イメージを掲載しております。

それから、60ページです。

人権教育の推進、施策の背景でございますけれども、これはパブリックコメントの意見だったと思えますけれども、子どもの権利条約に関することも触れたほうが良いということで、1段落追加いたしました。

それから、取り組みの内容②でございます。東京都教育委員会の人権教育プログラムをベースにして文章を書いておりますけれども、少し分かりにくい部分もありましたので変えさせていただきました。それと性同一性障害という言葉を使っておりますけれども、これも性自認、性的指向という言葉に改めております。

それから、65ページ、No.15、特別支援学級（固定学級）の今後のあり方の検討、取り

組みの②の部分です。前回の策定委員会で、本市の療育機関であるハビットについてご指摘がございましたので、連携先としてそのことも書きました。②でございますが、「都立特別学校」の後に「や療育機関等の関係機関と連携して」と書かせていただきました。

そして、その次のページ、66ページでございます。

No.17、スクールソーシャルワーカーと家庭と子どもの支援員の配置拡充、「支援員」では分かりにくいということで、正式名称「家庭と子どもの支援員」に書き改めております。

それから、医療機関との連携についても指摘がございましたので、施策の背景1つ目の丸です。本人や保護者の意向を尊重しながらですが、学校・家庭・福祉や医療等の関係機関がより連携して対応する必要と書かせていただきました。

続きまして、68ページです。

No.20、帰国・外国人教育相談室による支援の充実。網かけ部分は、「元外国籍」という言葉でくくっておりましたが、ここも言葉を補う必要があるということで直しております。パブリックコメントの指摘や、第六期長期計画でもこの表現が議論になりました。「日本語を母語とせず保護指導を必要とする児童・生徒」と改めております。

ここでは本市で発行している保護者向けの学校で使う持ち物リスト中国語版、英語版をつけ加えております。

72ページです。

No.24、武蔵野市立小・中学校における働き方改革の推進、はこの策定委員会でもたびたびご議論いただいた部分だと思います。取り組み内容の③は言葉を充実させております。市講師の配置や学習指導員の配置、一部教科担任制の導入について、その狙いから書き起こしております。「教材研究や授業準備、他の教員の授業観察等を行う時間を生み出すため」と目的を書いた上で、「市講師の配置による教員の持ち時数削減の目標を定めて取り組みます」といたしました。計画でございますので、具体的な部分までは書けませんが、目標を定めてやっていくということを書かせていただきました。また、学習指導員等の以下は前回と同じでございます。

それから、74ページでございます。

施策の背景の第3段落、いわゆるSTEAM教育についてでございますが、前回は77ページ、文化・芸術活動の充実の中に入れていましたけれども、むしろ74ページのほう

がいいだろうということで、移しております。

取り組みの内容⑤につきましても、市の教育委員会や東京都の教育委員会の研修以外にも先生方は参加しているというご指摘がありましたので、「学術研究団体が主催する研究会」という言葉を補っております。

そして、85ページ以降は参考資料になっております。

皆様の委員名簿は89ページ、資料2でございます。

そして資料3は、これまでの検討状況ということで、第1回以来検討事項を載せております。これが次の90ページ、91ページにわたっております。

あと資料4、中間まとめに対するパブリックコメントの概要と取扱い一覧、今回の策定の特徴だったと思いますけれども、パブリックコメントで非常に多くのご意見いただきましたので、その取り扱い方針とあわせて基本的には全て掲載させていただきました。パブリックコメントにつきましては、143ページまでございます。

その後、144ページ、資料5でございます。昨年度実施しました実態調査の概要版、保護者の方からお答えいただいた内容は147ページ以降、150ページ、資料6は教員アンケートでございます。パブリックコメントや傍聴者のアンケートにもあったと思いますけれども、先生方の自由記述にも貴重なものがあつたはずだということでしたので、概要ではございますけれども、主な意見を書かせていただきました。

152ページ以降は、用語集となっております。

駆け足になりましたが、前回からの変更点は以上になります。

○副委員長 ただいま事務局から資料の説明がありました。前回の議論が大分まとめられていて、いろいろところで加筆修正を丁寧にしていただきました。

各委員のほうからもしご意見があれば、お願いいたします。いかがでしょうか。主に加筆修正の部分を今説明していただきましたが、全体の構成にわたってでも結構ですし、ご意見があればお願いします。

ありますか。どうぞ。

○委員 27ページからの現状と課題もすごく分かりやすくまとめられているなと思って拝見いたしました。

41ページに図表の出典が書かれているのもすごく分かりやすいなと思ったのですが、一部平成30年度というふうに書かれているんですが、いつ時点のデータなのかというのが分かればさらに分かりやすいかなと思ったのですが、いかがでしょうか。

○渡邊教育企画課長 おっしゃるとおりですね。41ページにいつ時点のものか後ほど加筆したいと思います。

○副委員長 どうぞ。

○委員 68ページの帰国・外国人教育相談室のところの網かけの中に入っている言葉に「日本語を母語とせず保護指導を必要とする児童」と書いてあるこの「保護指導」という言葉の捉え方ですけれども、いろいろな捉え方があるかなと思ったんです。例えば児童相談所でも保護指導という言葉も使いますし、かなり強い意味があるような感じがするんです。この場合ですと、どちらかという学習支援というのでしょうか。そういった意味合いのほうが強いのかなとも思うんですけれども、いかがでしょうか。

○牛込教育支援課長 こちら、文言としては市の第六期長期計画と合わせた形の表現にしております。ここでは学習支援と、それに付随した学校生活での支援ということの意味も込めてこのような記載にしております。

○委員 一般的に適切かどうかということについては、今後私のほうも調べてみたいと思いますけれども、または注釈があってもいいのかなとも思ったんですけれども、その辺のところをご検討いただければと思います。

○委員長 少しおくれてしまいまして、すみません。ご意見のほう、ほかいかがでしょうか。

もしないようでしたら、答申の内容は基本的にはこれで固めさせていただきまして、さらに今出ましたような部分も含めた細かい調整を委員長預かりという形で決定させていただければと思うんですけれども、よろしゅうございますでしょうか。

ありがとうございます。また事務局を含めまして、少し何か気づかれたことがありましたら、ご連絡をいただきましたらその調整の中で検討させていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

では、これでひとまず答申の取りまとめを進めて、ある程度の成案を見た形になりました。ここまで各委員の皆様方に本当に精力的にいろいろ見ていただいたり、ご意見をいただいたりしました。最後にこれまでの議論を振り返りまして、一言ずつぜひご感想をいただければというふうに思っております。

○委員 1年半ほどありがとうございました。

最後のこちらの概要版を最後拝見しておりまして、この「学校・家庭・地域が相互に連携、協働した教育」というところ、「それぞれの役割を主体的に果たし、同じ目的に

向かって」というふうにあったので、この3者が同じ目的をまず握ることがすごく大事なななと思いました。なので、この3者がこの目的を握っていくためのセットアップみたいな場所があってもいいのかなというふうに感じました。1年半本当にありがとうございました。

○委員 1年半本当にありがとうございました。

最初、学校教育計画の策定委員会に出てくださいと言われて、どうしたらいいんだろうと思いました。どんな意見を出したらいいのかも全然分からなくて、戸惑うことがたくさんあったんですが、地域として、母としてこういう学校であつたらいいなという意見が言えたのかなと少し思いました。貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。

○委員 本当に1年半ありがとうございました。

私自身、こういう教育計画があるということ自体初めて知ったという感じでしたが、第一期、二期というところでも、そのときに応じた問題を事細かく検討されている方たちがいて、今の武蔵野の教育があるんだなというのを私自身すごい勉強になりました。そしてこの実際に第三期にかかわらせてもらって、本当に何かたくさんの方にこれを知ってもらえる機会を何かどこかにつくっていただけたらいいのかなと思ったりします。当然この開かれた学校づくり協議会の委員会の中では、こういう家庭でこういう問題がいろいろあって、本当に地域との協働を大事に考え、捉えられているよというようなところをお伝えして行って、それぞれの開かれたの会議の場でそれを話題にできるような形で進んでいければ、月日をかけて考えてきたことが文字だけではなく、実際に実践されていくという1つのことになっていけるのかなと思います。とにかく1つでも2つでも実践して行って、その結果、次の第四期にどうなりますというふうな実績をつくっていくことが、この委員会に出てその後の役割かなというふうなところをすごく感じております。本当にありがとうございました。

○委員 本当にたくさんいろいろ勉強させていただきました。ありがとうございました。

今おっしゃったように私もそう思っていて、このでき上がりつつある中で、地域・学校・保護者と連携してという言葉がすごくたくさん出てくるので、その保護者の代表としてこれを頭の中に入れながら、この先PTA活動に前向きではない友達にどうやって協力してもらっていくかなど、いろいろまだまだ考えることがたくさんあるなと私もこれからだなど勉強になりました。ありがとうございました。

○委員 もっと最初のうちは意気込んで、いろいろ勉強してと思ったんですが、なかなかそうもいかず、先生方のお話を聞いたり皆さんの話を聞いたりして頷いたりという感じでいろいろ勉強させていただきました。こういった話し合いの中でこういう計画が立てられているというのかかわれたことは、非常に貴重な体験をさせていただいたなということと、絵に描いた餅じゃいけないので、保護者としてもですが、地域でもいろいろ活動している身として、いろいろこのことを広めたり、絵に描いた餅を形にしていきたいです。いろんな人とつながって巻き込んで、武蔵野市らしいというのはそういうところから多分育まれていくというか育っていくものだと思うので、地域にはベテランの市民の活動もすごく行われていたころの人ももう70、80とすごくベテランになってしまったので、どのように地域の市民の一人として受け継いでいったらいいのやら、これから考えていきたいと思います。ありがとうございました。

○委員 お世話になりました。

1年半、武蔵野らしい施策、独自の施策ということをいろんなアイデアをいろんな方に出しながら、とてもいいものができたように思います。

20年から24年の計画ということですがけれども、この間にもきっとまたいろんなことが動いてきそうで、最近は高等学校を例えば文系、理系の選択をやめるとか、かなり大きなことがまた動き出しそうです。ここは市の政策なので義務教育までということが基盤に学校についてはなるかと思えますけれども、高等学校が変わってくるとまた中学義務教育についても細かいところでまた動いてくるのかなと。この動きを今計画されたものを基盤にしつつ、少し柔軟に対応できるようなまた運用ということが大事になってくるのかなと思います。

ただ、今回つくられたものは非常に幅広に多面的に見ていますので、そういう柔軟な運用に耐え得るような表現やら枠組みになっているんじゃないかと思えます。いろんな地域が今この時期にいろんな施策をつくっていらっしゃると思えますけれども、武蔵野市らしさと同時にほかの市町にも参考になるほどの深みと目配せの良さを持ったものになっているんじゃないかな、さすが武蔵野だなと思って拝見をしておりました。また今後、展開を楽しみにしております。

○委員 大変お世話になりました。

学校現場、小学校の校長会を代表しておりますけれども、目まぐるしい時代の変化、社会の変化の中で、来年度から始まる新学習指導要領という中で、その特色と武蔵野ら

しさをマッチしたこういった学校教育計画ができて、これからこれをいかに現場の中で推進していく、それが我々の使命かと思っておりますが、キーワードとして社会に開かれた教育課程とありますので、今後こういったことについては、地域や保護者の方々にいかに発信をし、理解をしていただいて、そして手を携えてやっていくということが学校現場の大事な責務かなと思っておりますので、それを肝に銘じながら推進していきたいと思っております。どうもありがとうございました。

○委員 私も中学校の代表としてこの1年半、本当に貴重な意見を聞くことができたな、そういうふうに思っています。今ありましたけれども、やっぱり新しく学習指導要領が変わっていく中で、開かれた教育課程、この部分をどういうふうに解釈していくかというのは、教員のほうでも研修は重ねていますが、この場で話し合ったこの内容というのをよりかみ砕いて、教員のほうもちゃんと周知して理解しなきゃいけないな、そんなふうに思いました。やっぱり学校現場が教育活動の中心になると思っていますので、やはりここで話し合われたこと、今後目指していくものを円滑に運用できるように学校が中心となって進めていかなくちゃいけないな、そんなふうに思いました。

いろんな話をしていく中で、やはり中心にあるのは子どもたちであって、それに対して我々がどういうことができるだろう。そこだけは絶対外さないように我々大人が冷静に客観的に状況を把握しながら改革を促していく、そういうことが大事だろう、そういうことを強く思いました。ありがとうございました。

○委員 来年から学習指導要領が小学校のほうで改訂されるタイミングであり、それから長期計画の策定と時期が重なったということもあり、非常に多くのパブコメをいただき、長期計画でも多くの議論をいただきました。今回、この策定委員会でもこれ以上ないというような皆さんに委員をやっていただいて、非常にいいものができたというふうに考えております。

先ほどご発言があったように、絵に描いた餅にはしてはいけないということが、我々に課せられた今後の使命だと思いますので、当然我々だけではできませんので、先生方、それから地域の皆さん、保護者の方と協力して、武蔵野市で育ってよかったなと子どもたちが後で思ってもらえるような施策を推進していきたいと思えます。

どうも本当に長期間ありがとうございました。

○委員 大変ありがとうございました。大変勉強になりました。

もともと私が参加させていただきたいということで手を挙げさせていただいたのは、

高校の現場が長いということで、高校の視点からぜひ小中の義務のところについて、武蔵野について何か意見が言えないかと思ったんですが、あんまり残念ながら私の高校の現状みたいなどころでのお話は余りできなかつたかなと思っています。

それから、あと私としては、大変不勉強で申しわけなかつたのは、この会を利用してというか、この機会を利用してぜひいろんな学校を見に行きたいなと思ったんですが、実際には見に行けなくて、結局直接現場の状況ということ把握できることがなくて残念なことになりました。

もう一つ残念だなと私自身思うのは、今先生方もおっしゃいましたけれども、具体的にこの計画を実施するのは恐らく先生方なんです。現場の先生方の代表がやっぱり欲しなかつたな、これが一つあります。

それから、日本の今までの経過とか風土とかということとなかなかなじまないのかもしれませんけれども、例えばフランスだとかヨーロッパなんかでは、学校のことを決めるときに必ず子どもの代表がいる。この割合は小学校と中学校とまた違ってくる。高校になっても違ってくるわけですが、やっぱり子どもの代表が何らかの形で直接、まさに武蔵野の子どもというのは非常に優秀というか、非常にいろんな自分の意見が言える子たちもいると思うんです。そういう子たちのどこかでそういうものも欲しなかつたな。やはり中心は子どもなので、子ども代表がいてもよかつたなと。あるいは先生方の代表がいてもよかつたな。これはユネスコの勧告から考えても、やっぱり非常に大事だなというふうに思っておりました。

そういう意味で、武蔵野らしさという意味で、ぜひ今後もこういう形のいろんな審議会が行われると思いますけれども、そういう方向性も検討いただければありがたいと思います。大変勉強になりました。ありがとうございました。

○委員長 副委員長のほうから。

○副委員長 私は、特別支援教育ですとか学校でうまくやれないお子さんへの教育相談というのが専門ですので、どうしても個に対しての、児童・生徒の個に対しての支援ということを中心に考えがちなんですけど、こういった学校教育計画ですと当然その全体の仕組みと個への支援というものの両方ですので、なかなかやはり難しいなと思いつながら参加させていただきました。国や都の制度がある中で、武蔵野の地域性とか武蔵野らしさというのを出すというのが、私は第二期の策定委員会でも参加させていただきましたが、やっぱり改めて難しいなと思いつました。ただ、今日拝見させていただいて改めてきれい

に概念図のほうでもいろんなキーワードが入っているのが、武蔵野らしさというか、これが武蔵野でやってくれることなんだなというのがいろいろ入っていて、非常にわくわくする部分なんかもありました。武蔵野のいわゆる優しさと堂々とした感じの姿というその両方の姿といいますか、両者があっていいなというふうに思いました。

私自身の立場は、委員長と同じ教員養成の大学の教員ですので、今回のこの計画というのは、学校というのはやはり子どもが中心というのは当然そうなんです、子どもと保護者と教師というこの3者について、私なんかはどうしてもサポートを求める子とか、サポートの必要な子たちとかというふうな視点で見っていきますから、その辺、その今の3者、子ども、保護者、教職員に対してどういうふうにやっていけばいいかということが、この教育計画の中に割といろんな側面で委員の皆様からもそういう意見が出ていて大変勉強になりました。教員養成する側の人間として、これから私自身は教員だけではなくてスクールカウンセラーとかスクールソーシャルワーカーの養成のほうのコースにもおりますので、そういった教職員の育成についてもやはり大変勉強になりました。この計画5年間で、先ほど各委員からもこの5年間もいろいろあるだろうからいろいろまた考え直さなくちゃいけないことがあるかもしれないなんていう話が出ていましたが、しかし骨太と言っていいほどのいろんな計画ですから、これを基本にしながら武蔵野市で取り組んでいただけるとありがたいなというふうに思いました。

1年半ありがとうございました。

○委員長 最後に私のほうからも一言お話しさせていただければと思います。

本当にありがとうございました。武蔵野市の私のかかわりとしては、学校教育計画の前に地域の子どもたちの動きについて、少し前からかかわらせていただいていたんですけども、そのときも強く感じていたんですが、非常に市民の皆さんも行政の皆さんも本当によく話し合われて、それで子どもたちのことを支えようとなさるといふその積み重ねとか財産がとても大きな市だということを感じていました。今回もこのメンバーも本当にすばらしいメンバーなので、逆に自分が変なこと言わないように気をつけないといけないなと思いましたが、最初に案が出たときに、二期の枠組みを利用して案をつくられたんですけども、物の見事に有識者の先生方からも、あるいは市民の皆さん方からも、簡単に言いますと新しいお酒を入れないといけないのに古い革袋で盛ってくるとはどういうことだみたいな、議論になって、今の子どもたちや教育改革の動向を踏まえた新しい枠組みを修正してつくられて、そこが基準に動いてきた。こんなことができる

行政や市民の皆さんやこの委員会というのは、多くはないんじゃないかなと思います。そういう意味で、やはり積み重ねられてきたものというのが、今回も非常によく反映されているように思いましたし、ぜひそういう意味では今この三期に命を与えなければというようなご意見が非常に多く出ていて、頼もしいといえますか、力強いなと思っています。第四期とか五期に至るこの先は、本当に変化が激しいと予想がなされるんです。大体、教育を考えると時には社会が変わると枕詞でつけることが多いんですけども、私自身もそういう社会が変わるといようなところでさまざまな実感を持っているところがあって、ぜひ武蔵野市がモデルをほかの方々にも見せていただけるようなそんな動きになればいいなと、またあるいはそうなるんじゃないかという非常に実感を持って終わらせていただけるなと思っています。

皆さんで支えていただいて、すばらしい話し合いになりましたこと、本当に感謝申し上げます。

それでは、最後に竹内教育長からご挨拶いただければと思います。よろしく申し上げます。

○竹内教育長 教育長の竹内です。昨年の7月から10回にわたって委員会でご議論いただいてまことにありがとうございます。

こういった委員構成でこれからの学校教育計画についてご議論いただけるというのは、これ以上ない構成といいますか、幅広く層の厚い構成でご議論いただけたと思っています。それと関係もあると思いますが、パブリックコメントも今までにないぐらいの多くのご意見をそういったご議論に誘発されてということだと思いますが、いただきました。この答申を拝見して、現在の武蔵野市の現状や課題、そして時代の要請なども反映されてご議論いただいたすばらしい答申をいただいたと思っています。

中身を先ほど来お話ありますけれども、柱立てや基本的な考え方を見ると、やはり大事なキーワードをいろいろといただいていると思います。基本的な新しい学習指導要領への対応や自信を高め意欲を育む、あるいは多様性をむしろ力として生かすとか、これはむしろ課題になるのかもしれませんが、ご家庭、地域がどうやって連携、協力をしていくのかなど重要なキーワードもいただいています。

今回は、そういったご議論を踏まえてのことだと思いますけれども、ちょうど長期計画と、それから子どもプランも整合を図りながら進められてきましたので、そういう意味でいうと、行政としてもこれほど強いというか、長期計画ともつながっていますし、

子どもプランとも未就学の部分ともつながっているという意味でいうと、心強い計画はないと思っています。そういう位置づけの計画がくれたのも、皆様方のおかげかなと思っています。

今後は、教育委員会の計画として位置づけた上で、これは宿題になると思うんですが、私どもとしては具体的な施策を確実に実施していくつもりです。1年余りになりますが、大変ありがとうございました。感謝申し上げます。

○委員長 どうもありがとうございました。

それでは、最後に事務局のほうから何かございますか。

○渡邊教育企画課長 議事としてはこれで終わりでございます。これまで事務局のほうとしても至らない面が多々ありましたけれども、ここまで本当にご協力いただきましてありがとうございました。やっとここまで来たなという感じでございます。

計画をこのようにまとめていただいて、計画はきれいにまとめて終わりではなくて、私はこれを使い倒さなければいけないなと思っています。第三期に入って、実践を1つでも2つでも数え切れないほど積んで、それが終わるころには、第三期がぼろぼろになるころには第四期の策定が始まるというような感じでいきたいなと思っていますので、またどうぞよろしくお願いします。

事務局のほうからは以上になります。

○委員長 ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして策定委員会を終了いたしたいと思います。

どうもありがとうございました。

午後 7時12分閉会